

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名 佐賀市立思斉小学校

達成度(評価)
A:十分達成できている
B:おおむね達成できている
C:やや不十分である
D:不十分である

1 前年度 評価結果の概要
○「学び」の成果については、小中連携学力向上地域指定事業一年目として、各教科の授業における指導力向上をめざし、「問い」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深めた。小3年国語、小6年体育の授業実践が提案された。学習状況調査結果からは、読解力・思考力・表現力の向上について引き続き、授業改善を図る必要があるため、今後もPDCAサイクルに基づき、学力向上に係る具体的な方策について見直し、実践に取り組む。
○「育ち」の成果については、特別支援教育に係る個別の支援会議を定期・臨時に開催し、適切な支援や校内体制について都度、改善を図ってきた。今年度は年間で見直した支援体制について、年度当初に特別支援チームと交流学級との連絡を中心に、学校全体でよりきめ細かな支援体制づくりに取り組む。いじめ防止に係る調査や認知事業への対応については、学級担任や生徒指導担当を中心に、報告・連絡・相談を密にこして解消に向けて取り組んできた。年間16件の認知報告を行った。Q-Uテストの結果を生かし、開発的生徒指導の観点から児童一人一人に役割を与え、集団生活への満足度を向上させることができた。
○「誇り」の成果については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域人材を活用した授業実践や体験活動に十分取り組むことができなかった。また、読み語りボランティアの活用、地域の祭りへの参加など、地域との連携の機会も自粛・中止により減少した。小4年で毎年行っている「思斉学検定面接」については実施できた。今年度は、地域人材リストを更新し、コロナ禍においても可能な範囲で地域とのコーディネートに係る体制づくりに取り組む。
○ 学校運営に係る業務改善については、自発的勤務時間の上限45時間を平均では下回ったが、個別には超過する職員が毎月4~5名程度いる。今年度は適正な勤務時間の管理に加え、仕事の質の向上を図るため、業務内容について定期的な点検・改善を行い、働きがいのある職場づくりに取り組む。

2 学校教育目標 『見賢思斉』の精神で たくましく未来を切り拓く児童の育成
～小中一貫教育の推進を通して～

3 本年度の重点目標
① 目標や夢の実現に向けて努力する児童 ② 学ぶ意欲をもち、自ら考え行動する児童 ③ 自他のよさを理解し、よりよい人間関係を築く児童
④ 心身の発達について理解し、健康な心身をつくろうとする児童 ⑤ 郷土に誇りをもち、郷土の文化や伝統を大切にす児童

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目
重点取組 評価項目 取組内容 成果指標(数値目標) 具体的取組 中間評価(進捗度・進捗状況) 最終評価(達成度・実施結果)
●学力の向上
●心の教育
●健康・体づくり

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目
重点取組 評価項目 重点取組内容 成果指標(数値目標) 具体的取組 中間評価(進捗度・進捗状況) 最終評価(達成度・実施結果)

5 総合評価・次年度への展望
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育
・全ての項目で「概ね達成できた」(B評価)以上の結果となった。これは、コロナ禍の中、計画を見直しながらも職員で共通理解のもと工夫した教育活動に取り組んだ成果だと考える。
・校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら授業改善することができた。小中連携学力向上地域指定事業2年目として、「問い」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深め、授業公開を行った。児童の学びの質を高めるような授業づくりを継続していきたい。
・今年度は、様々な場面で地域との交流や小中合同の交流が制限された。次年度は、リモートや少人数など、形態を工夫しながら地域連携や小中連携を進め、社会に開かれた教育活動や心の教育を充実させていきたい。
・カリキュラムマネジメント、業務の効率化を進め、職員の時間外勤務時間を短縮するよう努める。週末の定時退勤の徹底を図る。